

Title	ラムの女性が語るライフヒストリー (2) - 4
Author(s)	井戸根, 綾子
Citation	スワヒリ&アフリカ研究. 2018, 29, p. 121-134
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/69819
rights	
Note	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

ラムの女性が語るライフヒストリー (2) - 4

井戸根 綾子

0. はじめに

筆者はこれまでケニア・ラム島に生きる女性へのインタビューを重ねており、彼女たちのライフヒストリーを個人ごとにまとめ、日本語訳を加え解説を補足することに取り組んでいる(井戸根 2012、2015、2016、2017)。本稿の調査協力者 D 氏のライフヒストリーはすでに別稿において紹介しており、井戸根(2015)では幼少期から初婚を迎える前までについて、井戸根(2016)では初婚および再婚を含む結婚について、井戸根(2017)では結婚生活における夫婦関係や出産についての彼女の語りを取り上げた。本稿では、実子と調査当時の生活状況についての語りに焦点を当てる。複数回にわたる D 氏のライフヒストリーの紹介は、本稿をもって最終回とする。

1. 調査および調査協力者 D 氏の背景

本稿に関わる聞き取り調査を行ったのは、ケニア共和国の沿岸北部に位置するラム島の中心地ラム(Lamu)である¹⁾。第一次調査は 2003 年 8 月～10 月に、第二次調査は 2004 年 12 月～2005 年 2 月に行った²⁾。調査地ラムの主な概要、調査協力者 D 氏の略歴、D 氏の語りの中で登場する地名については井戸根(2012、2015)を参照されたい。

D 氏のライフヒストリー全体を把握するために、本稿以外の井戸根(2015、2016、2017)において語られた内容を簡単に紹介する。D 氏の年齢は 2003 年の自己申告によると 70 歳代であったが、正確には不明である。彼女自身および彼女の両親はラム島の対岸に位置するムクヌンビ(Mkunumbi)の出身である。D 氏の母親は 12 歳の頃、D 氏の父親と結婚する。父親は農業を行いながら食料品店を営んでいたが、D 氏が 1 歳にも

¹⁾ 調査時のラムは行政上、コースト州(Coast Province)ラム県(Lamu District)アム郡(Amu Division)に属していた。しかしケニアでは 2013 年に行政区分としての州・県・郡が廃止され、47 の「カウンティ」を地方行政の中心単位とすることが導入された。現在の行政区分はラム・カウンティ(Lamu County)ラム西部・サブカウンティ(Lamu West Sub County)となる。なお各カウンティの領域は、旧行政区分の各県とほぼ一致する。

²⁾ インタビューは調査協力者 D 氏の自宅で筆者自身がスワヒリ語によって行った。録音したインタビューを書き起こした後に D 氏本人に内容を確認し、一部補足説明を受けている。

満たない頃、母親が D 氏の弟を身ごもっている最中に亡くなる。まもなく D 氏とその弟の養育は父方のおじの手に委ねられ、2 人は母親のもとを離れる。その後 D 氏は 14 歳の頃に農業に従事するムクヌンビ出身の男性と初婚を迎える。1～2 年の結婚生活の後に離婚をし、まもなく 2 人目の夫と再婚する。この男性も 1 人目の夫と同じくムクヌンビ出身で農業を行っていた。2 人目の夫との間に長男 R を出産し、およそ 5 年間共に暮らした後に離婚する。漁師を生業とする 3 人目の夫との結婚を機にラムに移り住み、次男 L、長女 M、次女 J、三男 I を出産する。その後四男を病院での帝王切開により出産するも生後 3 日で亡くなる。それ以外の実子はいずれも自宅出産である。3 人目の夫とともに自宅を建築するも、その数年後に離婚をする。D 氏がすべての実子を引き取り、建築した自宅での生活を続けた。家を出た元夫は離婚後も時折子どもの様子を見に訪れ、養育費などの経済的な協力を惜しまなかった。3 度離婚した後に D 氏が再び結婚をすることはなかった。

2. D 氏のライフヒストリー

本稿は、基本的に井戸根（2015、2016、2017）の記述形式に従っている。個人名はすべて仮名とし、アルファベット一文字にて表記する。実際のインタビューでは D 氏のライフヒストリーがすべて時系列的に語られたわけではない。第一次調査時と第二次調査時に聞き取った語りをあわせた上で筆者が若干の編集を行い、内容に沿ってそれぞれ小見出しを設けた。2.1 は原語であるスワヒリ語での記述であり、2.2 は日本語訳に適宜註を付けたものである。

2.1. 原語（スワヒリ語）

調査協力者 D 氏がインタビューの際に使用しているスワヒリ語にはいわゆる標準スワヒリ語とは明らかに異なる発音や語彙が見られる。しかし同一の単語において、時によって標準スワヒリ語の発音が現れる場合とそうでない発音が現れる場合がある。この現象は語彙に関しても同様であり、標準スワヒリ語の語彙とそうでない語彙が、同じ意味を表すのに混合して使用されている。ムクヌンビで生まれ育った D 氏は 2 人目の夫との離婚後にラムに移り住んでおり、彼女が会話において基本とするスワヒリ語はムクヌンビで培われたものであると推測される。しかし彼女が調査時に至るまで長年にわたってラムに居住していること、3 人目の夫がラム出身者であることから、ラ

ムで使用される変種の影響も否めない。また聞き手である筆者が理解しやすい標準スワヒリ語も時には使用していたと考えられる。D氏は数種類のスワヒリ語変種を混合して用いていたが、ここではそれを単に「スワヒリ語」と呼ぶ。その表記については標準スワヒリ語の表記法に従っている。

2.1.1. Watoto wangu

Mtoto wangu mmoya ule aliyokufa alikuwa amemaliza nyaka kumi na tisia. Aliolewa na bwana, amezaa watoto wawili basi akafa. Alisoma shuleni, wengine hawakusoma. Wa kike, M aliiza, akifika chumba cha ine, aliata. Akiolewa alikuwa mtoto mdogo kana kumi na mbili. Watu wani laumu.

‘Mama yake M mbona amemfanyia hivo. Bado mtoto tu, haisi kitu.’

Akazaa watoto waine. Akizaa mtoto wa kwanda akimbeba nae, watu wanamwona ni nduu yake.

M mimi nilimwoza akiwa na nyaka kumi na mbili. Akitokea bwana, nilimpa. Wayua sababu? Watoto wetu sasa si wazuri. Wewe wajihangaikie na watoto chakula, kiatu, kandu, hivi. Mara ukishutuka, mtoto anabeba tumbo la mimba. Basi akitokea bwana, akikwambia hiyau.

‘Hoyo mimi nataka.’

Mpa kabisa, ee, mpa kabisa. Huoni ule A uko sawasawa na M. Ndiyo mtoto wake wa mwando ule. Mtoto wako wa mwando akiinukia, wewe na yeye huwa sawasawa. Akiwaona mtu, hunena ni mtu na nduye. Na ni mtu na mama’ake.

Na wa kiume mwaka wa chumba cha ine akikataa. Na hoyo amezaa watoto watatu. Basi hawakusoma tena. Mwingine mmoya wa kiume amesoma mpaka amemaliza *Form 4*. Hoyo sasa afanya kazi kule Posta. Wamwona haneni? Basi humwisi. Akisimama kusema hapa, wewe humwezi. Akisimama kuzungumza, maneno yake huoni yaani kizungu. Hukishiki vile anavyozungumza.

Sasa nyumba hini si yangu, ni ya mtoto wangu. Nakaa na watoto wangu wawili, mmoya mwananke, M, mmoya mwanamume. Niko na wajukuu sita hapa nyumbani. Mmoya wa aliyokufa na mmoya wa kiume. Hoyo mmoya hakai hapa. Hawa wakaa hapahapa. Wengine wanalelewa na mama yao. Na bwana’ake M alala hapahapa. Na watoto wake wote, huyu na ule wote. Ee, wote ni watoto wake. Sute tuko hapahapa.

2.1.2. Maisha ya siku hizi

Naamka saa kumi alfajiri. Kisha huamka hapo, basi silali tena mpaka saa tano usiku. Kama wewe ukiinuka, utafagia, utaosha zombo, utafua, utapika. Sasa ukimaliza kuswali ukimaliza kula, sasa ni kupumzika, utalala. Sasa umekwisha kazi zako za nyumbani. Wataka kupumzika unalala. Ukapumzika ukalala ukatuza bongo weee. Kisha ukainuka, ukiwa wataka kutoka, wataka kutoka kuangalia watu, sasa utaoga, utatana nyee zako, utavaa nguo zako, utatia buibui lako, utatoka. Utakwenda kuangalia watu mpaka magharibi, utarudi nyumbani.

Lakini sasa mimi sipiki nyumbani, nataka kula tu. Mimi nazubaa kana mwanamume. Nangoja wakapika wale na mimi nikala. Ila wale hawako, hakuna mtu ndani ya nyumba, basi napika. Lakini ikiwa wako, nakaa tu.

Kazi yangu ni ile uliyoniona nikitoka nayo, natua nasuka. Hapo nilipokuwa nikiona nina mato, nilikitia kofia uzi. Nikatia uzi nikatia uzi, kisha nikawa siwezi tena kazi hiyo. Sasa kazi yangu ni ile uliyoniona. Nikazengea miyaa nikatua nikasuka kizigo nikazanya nikapata mapeni nikanunua napendavo, tambuu basi. Zamani nilikivuta sigara, kisha nimeata sivuti tena. Sasa hula tambuu ama tumbaku. Bwana'angu alikuwa hapendi nivute. Nikashikilia tambuu nikashikilia tumbaku mpaka yeo sasa hula tambuu na tumbaku, sili tena sigara.

Sasa maisha magumu, si kana zamani. Zamani ilikuwa mambo mazuri. Sasa tuna taabu sana, sampli mbalimbali. Natengeneza kizigo, mkeka, lile la kushona, jamvi. Hizi miyaa naenda kununua hoko, watu wauza. Kipande kimoya shilingi sita. Nasuka jamvi, nasuka mkeka. Nauza hunu, kizigo pima hamsini nipa shilingi mia moya na hamsini. Hauna faida lakini tuendeleo, si kana kutafuta maisha? Lakini huwa taabu, uwatue miyaa ukae kitako usuke kisha ukate masumba kisha nini kisha ukunde. Shilingi mia moya na hamsini pesa kidogo, kwa maana hakuna kazi nyingine.

J! Ndoo. Angalia tumbaku. Tumbaku unatia hapa mdomoni, ndogo hivi, ukaziwiya eee kisha unatoa. Hini ni majani ya kusagwa. Sasa natumia tumbaku, basi, hakuna kitu kingine. Tambuu mara moya mooya tu. Haina faida cho chote, lakini kama ni uraibu. Ukitokula utaisikia dhiki. Ukiata, basi mbio mbio hiyau kwa ghafla ghafla. Pia upate ugonjwa mpaka ukafuate tena upate taratibu. Basi hapo utakuwa huna neno. Lakini ule pa pa, ukitupa ule uraibu, hutia ugonjwa wingine. Haina faida cho chote, hula tu. Marungi sili. Marungi? Ah, ah! Mimi hunwa chai, nakula wali, nakula tumbaku, huoga, huswali, hulala. Siendi harusini mimi. Siendi sinema, sili

marungi. Wameshakuwa sasa watoto wameinukia hao waenda harusini, mimi siendi tena. Wengine wenzangu kama mimi huenda. Watoto huenda harusini basi, mimi siendi.

Wasichana wa zamani na wa sasa mbalimbali. Walikuwa wanajisita, walikuwa hawatoki, walikuwa hiyau. Sasa wanatembea wenyewe barabarani, si zitotoroni. Hapo zamani walikuwa hawatoki kuzurura.

2.2. 日本語訳

日本語訳においては、同じ言葉の繰り返しや言い換えなどは簡単な編集を行い、原語通りの訳では理解しがたい部分については若干の言葉を補足している。

2.2.1. 子どもたち³⁾

亡くなった娘（次女）は19歳にはなっていたね。結婚をして子どもを2人産んで、それから亡くなってしまった。この娘は学校教育は受けたよ⁴⁾。（ちゃんと）受けなかった子もいるさ。娘のM（長女）は嫌だって言ってね、小学校4年生になった時に学校はやめたよ。結婚した時は12歳ほどの幼い子どもだった。周りの人はこう言って私を非難したもんさ。

「Mのお母さんったら、なんでMにそんなことしてしまったんだ。何も知らないまだほんの子どもじゃないか」

Mは4人の子を産んでね、最初の子を産んだ時にその子を抱っこしていると、周りには姉妹かと思われたもんだよ。

私はMを12歳で嫁がせてやった。夫となる男が現れて、嫁にやったよ。なんでわかるかい？ 娘っていうのはね、いい子になんかしてないからね。こっちは娘のためにやれご飯だ、靴だ、ワンピースだ、何だって必死な思いをしてるのに、はっと気づけば娘は妊娠してしまってる。だからね、夫となる男が現れてこう言ってくるとす

³⁾ D氏は別稿で自らの出産経験を語っているが（井戸根 2017）、彼女の出産回数は6回である。第1章で述べた通り2人目の夫との間に一男、3人目の夫との間に三男二女を出産している。ここでは、次男L氏、三男I氏、長女M氏、次女J氏について語っている。

⁴⁾ ケニアでは初等学校は8年、セカンダリースクール（中高等学校）は4年の教育期間が基本とされている。D氏は8年間の初等教育あるいはそれ以上を修了していることを「学校教育を受けた」とみなしていると思われ、初等学校を中途退学しているM氏については「学校教育を受けていない」と表現している。

るだろ。

「僕に彼女をください」

そしたらその男にやっつてしまえばいいんだ。そう、やっつてしまえばいい。ほら A が M と同じような歳に見えないかい？ A は M の最初の子だ。一番上の子が成長すると、母と娘はまるで同年代だ。他人が見れば 2 人は姉妹だって言うさ。だけど 2 人は母と娘なんだ。

それからね、息子（次男）は小学校 4 年生でもう通わないって言ったのさ。この息子は 3 人子どもを作ったよ。そんなわけで長女と次男はそれ以上学校には通わなかった。別の息子（三男）はセカンダリースクールの 4 年生まで修了した。今は郵便局で働いてる。無口な人だと思ってるかい？ そりゃ息子のことをわかってないね。この息子はね、たとえばここで立ち話をしだしたら手に負えないよ。立ち止まって何か話をしててもさっぱり言葉が聞き取れない。まるで外国語みたいで何を話してるのか聞き取れないんだよ⁵⁾。

今はこの家は私のものじゃなくて娘のものさ⁶⁾。2 人の子どもと同居してる。1 人は娘の M で、もう 1 人は息子⁷⁾。この家には孫は 6 人住んでる。1 人は亡くなった娘（次女）の子で、息子（次男）の子も 1 人居る⁸⁾。この子はここには住んでない⁹⁾。こっちの子たちはここに同居してる。息子の他の子どもたちは自分の母親に育てられてるんだ¹⁰⁾。あと M の夫もここで寝起きしてる。M の子どもたちも全員ね。この子もあの子もさ¹¹⁾。みんな M の子だからね¹²⁾。私らみんながここに住んでるのさ。

⁵⁾ 会話に熱が入ると、早口でまくし立てるように話す癖があることを意味している。

⁶⁾ 調査時に D 氏が居住していた自宅を指す。1 階部分は D 氏と 3 人目の夫で建築を行ったが、調査時は長女 M 氏が 2 階部分の建築を進めていた。所有する家屋や土地を母親から娘に相続させることはラムでは珍しくない。

⁷⁾ 三男 I 氏を指す。

⁸⁾ 同居している孫は、この他に長女 M 氏の実子 4 人を加えた計 6 人である。

⁹⁾ D 氏のそばに居た孫娘の 1 人、J 氏の長女を指している。J 氏の 2 人の娘のうち、次女のみが D 氏と同居している。長女は進学をして普段は他の町で寮生活をしているが、調査時は休暇中でラムに一時的に里帰りしていた。D 氏へのインタビューを行っている最中、その周囲には D 氏の孫たちが興味深げに集まっていた。

¹⁰⁾ 次男 L 氏は 3 人の子を残してすでに亡くなっている。彼の子のうち 1 人は D 氏と同居し、他の 2 人は L 氏の元妻が引き取っている。

¹¹⁾ D 氏のそばに居た孫たちを指している。M 氏は 2 度の結婚を経験しており、この 2 人は異父きょうだいである。調査時に M 氏が結婚生活をともにしていたのは 2 人目の夫である。

¹²⁾ 2 人目の夫との子だけでなく、前夫との子も含めていることを意味する。

2.2.2. 今の暮らし

午前 4 時に起床するんだ。その時間に起きたら、私はまた寝に戻るってことはないね¹³⁾。夜の 11 時になるまでね。たとえばあんただとね、起床したら掃除をして、食器を洗って¹⁴⁾、洗濯をして、料理をする。お祈り¹⁵⁾を済ませて食事¹⁶⁾を終えたら、休憩だ。昼寝さ。もう家事は済ませてるんだ。休憩をしようってことで、昼寝をするのさ。休憩して睡眠を取って頭をしっかりと休めるんだ。その後起きて、誰かの顔を見に行きたいとかで外出したければ、体を洗って、髪を整えて、服を着替えて、ブイブイ¹⁷⁾を身に着けて、外出する。日没の頃まで人に会いに行って、それから帰宅するんだ。

だけど私はもう料理はしないよ。食べる役だけしていたいからね。男みたいに何もしない。料理してくれるのを待って食べるだけさ。私が料理をするのは家の中に誰も居ないって時くらいだね。でも誰か居るんだったら、私はじっとしてるだけさ。

私がする仕事と言ったら、あんた、私が持って出てくるのを見ただろ、あれを細かく割いて編むんだ。目がよく見えていた頃は、コフィア¹⁸⁾に刺しゅうを入れてたよ。刺しゅうを入れるのはずっと続けてたんだけど、もうその作業はできなくなった。今の私がしてる仕事は、あんたが見たあれだよ。ヤシの葉を探してきて、それを細かく割いて、編み地¹⁹⁾を編んでいく²⁰⁾。それを売って小銭が入ったら、キンマ²¹⁾を買ったりし

¹³⁾ 基本的には 1 日 5 回決まった時間帯に礼拝をすることがムスリムの務めとされ、明け方、正午過ぎ、午後半ば、日没直後、夜半に各礼拝が行われる。D 氏がこのように述べているのは、夜明け前に起床して 1 度目の礼拝を済ませた後にもう一度寝床に戻り睡眠を取る人もいるためである。

¹⁴⁾ 前日の食事、特に夕飯で使用した食器は翌朝に洗うことが多い。

¹⁵⁾ 正午過ぎの礼拝を指す。

¹⁶⁾ 昼食を指す。

¹⁷⁾ ムスリム女性が外出時に衣服の上から身に着ける黒い外套。

¹⁸⁾ ムスリム男性の被る円筒形の縁なし帽。無地の他に、手の込んだ刺しゅうが施されているものもある。東アフリカ沿岸部の刺しゅう模様は多彩であり、中には他者へのメッセージを送る役割を果たすものも存在する (Kiriyama 2005:8)。ラムで施される刺しゅう模様には他の地域では見られない独特なものも含まれているが、模様を考案する職人は次第に減少しており伝統芸術の衰退が懸念されている (Nabhani and Said n.d.)。ラムでは伝統文化の保持を謳うラム文化フェスティバルが毎年行われており、伝統的な歌や踊り、詩の朗読などの他にコフィアに刺しゅうを施す様子も披露されている (図 1 参照)。

¹⁹⁾ 長い帯状に編み進め、出来上がった部分から徐々に丸く巻いていく (図 2 参照)。

²⁰⁾ ヤシの葉でゴザなどを編むことやコフィアに刺しゅうを縫いつけることは、ラムでは伝統的な手仕事とされている。現金収入獲得のためにこれらの作業に従事した経験のある女性は少ない。ラムで同じく女性のライフヒストリーを聞き取った竹村の論文においても、これらの手仕事をを行った経験が調査協力者の女性によって語られている (竹村 2001)。

²¹⁾ 本来はコショウ科の植物の名称であるが、ここではビンロウジ、石灰、タバコの葉などをキンマの葉に挟み口に含む嗜好品のことを指している。ビンロウジはビンロウというヤシ科の植

て好きなように使う。昔は煙草を吸ってたんだけど、やめてからはもう吸ってないよ。今はキンマか噛みタバコだ。夫は私が煙草を吸うのを嫌がってたね。キンマを愛用して、噛みタバコを愛用して、今になってもキンマと噛みタバコをやってる。煙草はもう吸ってないよ。

今の生活は大変だ。昔とは違う。昔はいい暮らしだったよ。今は色々と大変だ。ヤシの葉の編み地やゴザを作ったり、それを縫い合わせて大型のゴザ（図 3 参照）を作ったりしてる。このヤシの葉はね、あっちに売ってる人がいるからそこに買いに行くんだ。1 房 6 シリング²²⁾さ。大型のゴザや普通のゴザを編む。この編み地を売るとね、50 ピマ²³⁾ が 150 シリングになる。儲けにはならないけどやってかなきゃね。生活してくためだろ？ とはいえ骨が折れるよ。ヤシの葉を細かく割いたら腰を据えてそれを編まなきゃいけないし、それから繊維を切り落としたりなんんだりして、折り畳んだりもしなきゃいけない。150 シリングなんてわずかなお金さ。他に仕事がないもんだからね。

J²⁴⁾！ おいで²⁵⁾。噛みタバコを探してきな²⁶⁾。噛みタバコはね、口の中のここに入れるんだ²⁷⁾。こんなふうに小さいのをね、ずっと挟み込んでおいてから取り出すんだ。これは煙草の葉をすり潰したもんだよ。今は噛みタバコをやってるだけで、他には何もやってないよ。キンマはほんのたまにやるだけ。何のためにもならないけど、もう癖になってしまってるだけさ。口にしないとイライラしてくるんだ。やめるとすぐにね、本当にたちまちだ。それにね、また再開して定期的に口にするまでは病気みたいなもんさ。再開してしまえばもう問題はない。だけど頻繁に使用しているとやめたときに病気になってしまうんだ²⁸⁾。良いことなんて何もないよ。ただ口にしてるだけさ。

物の実であるが、興奮作用と依存性をもつ。

²²⁾ 本稿でのシリングとは、ケニアの通貨であるケニア・シリングを指す。D 氏へのインタビューの実施時期である 2003 年 8 月、2004 年 12 月はともに 1US ドル=約 75 シリングであった

²³⁾ 長さを測る単位。両手を左右に広げたときの片方の指先からもう一方の指先までの長さ。日本語の尋に当たる。

²⁴⁾ D 氏の孫娘。M 氏の娘で、セカンダリースクールに通っている。

²⁵⁾ インタビューは表玄関と接する位置にある調理場兼作業場のスペースで行っていたが、表玄関の扉のそばに居た孫娘を呼んでいる。

²⁶⁾ D 氏は噛みタバコを愛用の小箱に入れて保管しており、それを取りに行くよう言いつけている。小箱を待つ間しばらく語りを中断し、手渡された後に再開している。

²⁷⁾ 小箱の中の噛みタバコを手に取り、下唇と歯茎の間に挟む仕草を見せている。

²⁸⁾ 禁断症状のことを指している。

ミラー²⁹⁾ はしないよ。ミラーだなんてとんでもない！私はね、紅茶を飲んでご飯を食べて嚙みタバコを嗜んで、体を洗ってお祈りをしたら寝る。結婚式³⁰⁾には行かない。映画にも行かない。ミラーも口にしない。子どもたちが大きくなったから結婚式に行くのはあの子たちさ。私はもう行かない。私みたいな世代で行く人もいるけどね。結婚式は子どもたちが行くもので、私は行かないよ。

昔の娘と今の娘は違うね。(昔の娘は)自分の身を隠して、外出もしなくてね、そんな感じだった。今の娘たちは裏の道なんかじゃなく表の通りを歩くものね。昔はやたらと出歩いたりなんてしなかったよ。

3. おわりに

本稿では、D 氏の実子や調査時の生活状況に関する彼女の語りを取り上げた。4 度にわたり紹介してきた D 氏のライフヒストリーは本稿での語りをもって最終回とする。以下では、本稿での彼女の語りにおいて注目すべき点を述べる。

女性が低年齢で初婚を迎えることに関する D 氏の語りは別稿においても取り上げており、D 氏自身や彼女の実母の初婚について語られている (井戸根 2015)。D 氏の実母は推定 11 歳あるいは 12 歳、D 氏自身は 14 歳、さらに娘の M 氏は 12 歳の頃に初婚を経験している。ラムの特に年配の世代では、10 歳代半ばで初婚を経験している女性は珍しくない。一方で M 氏の世代においては 12 歳での初婚は一般的ではなく、母親である D 氏が「まだ幼い娘をなぜ結婚させたのか」と周囲の人々から非難されたのはそのことの表れである。

住人の大多数がムスリムであるラムでは、初婚前の女性が処女を失うことはタブーとされ、当事者の女性だけでなくその家族の恥ともされる。こういった道徳観は女性

²⁹⁾ エチオピアではチャット、アラブ諸国ではカートと呼ばれ、この植物の葉を噛むことで軽い覚醒作用を得ることができる。ケニアではミラーは合法とされており、消費だけでなく生産・輸出も行われている。ミラー使用の是非は、東アフリカ沿岸部のムスリムの間ではしばしば議論されている (Beckerleg 2007)。ラムでは一般的に喫煙が問題視されることは少ないが、ミラーの使用を好ましくないとする女性が多い。D 氏が自身のミラー使用を繰り返し否定しているのは、そのような背景によるものだと見ることができる。

³⁰⁾ ラムでの結婚式は基本的に男女別々に執り行われる。結婚式は新婦にとっての通過儀礼というだけでなく、招待客の女性にとっては娯楽の意味合いも強く貴重な交流の場でもある (井戸根 2007)。D 氏の語りからは、結婚式への出席は映画鑑賞と同様に娯楽の一つとして捉えられていることがうかがえる。

の行動規範にも深く関わっており、婚前交渉の危険性を孕んでいると考えられる恋愛から初婚前の娘をできるだけ遠ざけようとする親あるいは保護者³¹⁾は少なくない。また娘の恋愛がその親に発覚し、親が相手側の男性に即座に求婚するよう強要するといったことは珍しくない。娘というのは「いい子にはしていない」、「親が気づいたときには妊娠してしまっている」ものだと D 氏は語る。初婚前の恋愛は建前上許されるべきではないとされる一方で、実際には秘密裏に行われているのが実情である。10 歳代の早い時期に娘を嫁がせたのは初婚前の妊娠を未然に防ぐためであると D 氏は説明している。彼女の主張する正当性は、娘が「間違い」を犯さないように親は管理・監督しなければならないという考えに基づいている。

娘は初婚を迎えるまでは管理されるべき立場にあり、恋愛を誘因するおそれのある「外部」との接触には親は細心の注意を払おうとする。しかし時代とともに未婚女性の行動様式に変化がみられることを D 氏はインタビューの最後に語っている。目につきにくい狭い裏路地ではなく、人通りが多く見通しの良い表の通りを「今の娘はやたらと出歩く」のだと D 氏は半ば嘆くような口調で語る。かつては家庭内で過ごすことの多かった未婚女性であるが、初婚年齢の上昇、学校教育の普及、女性の雇用、娯楽の増加などの理由により、外出する機会は確実に増加している。しかし、未婚女性が親の目の届かない領域に踏み込み「外部」と接触するという行為は危険性をともなうものであると親は懸念する。ラムの女性の生活文化や価値観に関する研究を行った Fuglesang は、自身の論文においてラムの年配女性が述べた以下のような発言を紹介している。

「娘たちは母親を説得するんだ。あちこち色んなところに行って新しいことを目にする機会を与えてほしいってね。でもそれでとんでもないことに巻き込まれることだってあるんだよ」(Fuglesang 1994 : 88)

この発言は、母親が抱く初婚前の娘に対する懸念を如実に示している。本稿の語りの中で、D 氏が孫娘に向かって噛みタバコを持ってくるように言いつける場面がある。その時点ではすでに噛みタバコについての語りは一旦終了し別の話題に移っていたた

³¹⁾ 生みの親以外の人物も含む。以下、「親」とのみ記す。

め、D氏が再び嘔みタバコの話を持ち出したのは唐突に思い立ったような印象を受けるかもしれない。しかしこのときD氏が孫娘に用を言いつけたのには理由がある。D氏へのインタビューを行っている最中、孫娘は表玄関のそばに腰を下ろし半開きの扉の間から外の様子を眺めていた。しばらくすると扉の前を通りかかったらしい同年代の少年と会話を始めた様子であった。2人の会話に気づいたD氏は大きな声で孫娘を呼び、奥の部屋にある嘔みタバコを探すよう伝えるのである。それは、嘔みタバコの実物を筆者に見せるという親切心からくる行いでもあったであろう。しかしそれと同時に、孫娘を表玄関のそばから引き離し少年との会話を中断させることが目的でもあった³²⁾。そのことに関する直接的な言葉のやり取りがD氏と孫娘の間で交わされたわけではないが、D氏は娘の「外部」との接触を意図的に制限したのである。D氏の場合は娘ではなく孫娘に対してであるが、初婚前の娘の行動に親がいかに日常的に注意を払っているのかがわかる。さらに、未婚女性の振るまいの変化を語るD氏の言葉は、すぐそばに居る孫娘たちに意図的に聞かせる説教のようにも思える。

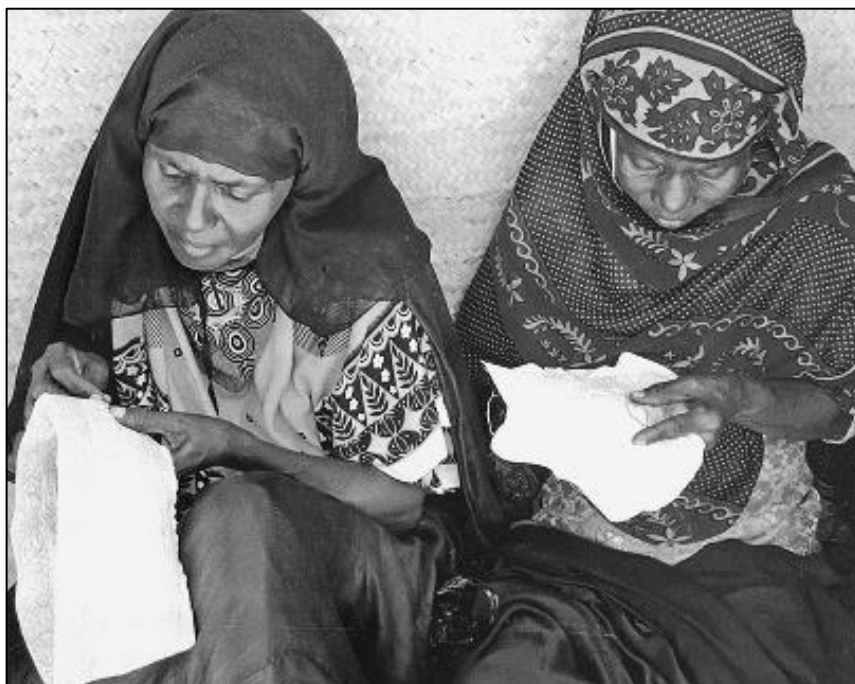
すでに別稿でも指摘している通り（井戸根 2015）、女性が低年齢で初婚を迎えることの背景には、娘が恋愛による「間違い」を犯す前に早い段階で結婚をさせるという親の意図が関わっている。娘が初婚を迎えるまで親は娘の行動に可能な限りの注意を払い、時には規制を与えようとする。もちろん娘がその規制に従うとは限らない。「間違い」を犯す危険を遠ざけるために、親は娘の行いに対して警戒心を解くことはできないのである。ただし、こういった責務が親に課せられるのは娘が初婚を経験するまでのことである。娘は婚姻を結ぶことで妻となり、その管理者は親ではなく結婚相手である夫となる。つまり娘を嫁がせた時点で、親は娘を管理する責務とそれにとまなう不安から解放される。D氏の語りには、娘の管理者としての責務を滞りなく終えそれを娘の夫に引き渡すことで、できる限り早く肩の荷を降ろしたいという本音も込められていると言えるだろう。

³²⁾ そのような意図があったことをD氏はインタビュー終了後に認めている。その際に、「親がそばに居ても平気で娘に話しかけてくる男もいるんだ。私らへの敬意がない。失礼なもんだよ」と語っている。このような意見はラムの年配女性の口からしばしば聞かれ、筆者の他の調査協力者（60歳代女性）も同様の意見を述べている（井戸根 2012:36）。

参考文献

- 井戸根綾子. 2007. 「ケニア・ラムにおける女性間の交流」『スワヒリ&アフリカ研究』第 18 号, 1-20.
- . 2012. 「ラムの女性が語るライフヒストリー (1)」『スワヒリ&アフリカ研究』第 23 号, 23-47.
- . 2015. 「ラムの女性が語るライフヒストリー (2) -1」『スワヒリ&アフリカ研究』第 26 号, 79-98.
- . 2016. 「ラムの女性が語るライフヒストリー (2) -2」『スワヒリ&アフリカ研究』第 27 号, 82-100.
- . 2017. 「ラムの女性が語るライフヒストリー (2) -3」『スワヒリ&アフリカ研究』第 28 号, 56-71.
- 竹村景子. 2001. 「イスラームと観光の町で昔話を語る —スワヒリ女性の声を聞く (2) ケニア、ラム編—」『中東イスラーム・アフリカ文化の諸相と言語研究』, 259-311. 大阪外国語大学.
- Beckerleg, Susan. 2007. *The Khat Controversy*. Oxford. New York. Berg Publishers.
- Chonjo Community Action Group. 2008. *Chonjo*, Issue 6. Lamu. Kul Graphics Ltd.
- Fuglesangu, Minou. 1994. *Veils and Videos —Female Youth Culture on the Kenya Coast—*. Stockholm, Stockholm Studies in Social Anthropology.
- Kiriama, Herman O. 2005. *The Swahili of the Kenya Coast*. Mombasa. Eight Publishers.
- Nabhani, Ahmed Sheikh and Said, Amira Mselem. n.d. *The History of Swahily Hat (Kofia Designs)*. National Museums of Kenya.

図1：ラム文化フェスティバルにてコフィアに刺しゅうを施す女性たち



(Chonjo Community Action Group 2008:表紙)

図2：手前がヤシの葉を割いたものの束。奥が編み地（kizigo）



(ラムにて筆者撮影)

図 3 : 大型のゴザ (jamvi)



(ラムにて筆者撮影)